

1. ニセコ観光局設置に向けた検討の背景：ニセコの価値を未来に継承する
倶知安・ニセコ両町に対し、リゾート観光振興取組みの一元化による、顧客目線に基づく新たなリゾート観光推進と、住民目線に基づく地域社会全体への波及効果の最適化が期待されている。
これらの地域内外のニーズに応えるため、両町地域における最も根源的な価値であるニセコの水、緑、空気、静穏、自然生態系、自然景観、農村景観、地域生活文化等を高品質に保全し未来に継承するガバナンス機能を有する組織として、官民一体の「ニセコ観光局」の設立が求められている。

2. これまでの検討の経過：ヒアリング調査と検討会議の議論を紡いで

- ①プロジェクト検討会議による第一次検討経過（H22. 10～H24. 9）
 - ・ 第1回検討会議～第9回検討会議（多様な意見によるフリー討論）
- ②関係者のヒアリング調査（12/5 現在で、倶知安町 11 名/ニセコ町 10 名/他 2 名）10/01～
- ③プロジェクト検討会議による第二次検討経過（H24. 10～H24. 11）
 - ・ 第10回検討会議～第14回検討会議（これまでの総括、論点ごとの集約的議論と暫定結論）
- ④両町長への経過説明と意見の反映（11/30～12/05）
 - ・ 両町長への別々の説明と、両町長合同での説明及び意見の反映（両町の基本的考えについて）

3. これまでに整理されたこと：暫定的な結論と、さらなる検討の深化

(1) 「ニセコ観光局」の狙いは、自然などニセコ観光の根源的価値を未来に引き継ぐこと
これまでの調査と議論において、「観光局」が必要という声は多いが、環境整備面とセールス面など「観光局」に期待する機能は、両町の地区によって異なっている。また、リゾート観光の経済的振興を維持する上で、ニセコの価値の根源である自然環境等地域資源の保全と継承の基本方針を未来に向けて確立するガバナンス機能が極めて重要、との指摘もなされている。

1) ニセコリゾートエリアのビジョンは、地区の個性を重視するマウンテンリゾート
ニセコリゾートエリアのビジョンを「四季それぞれに満足できるマウンテンリゾート」とし、エリアを構成するひらふ地区やニセコ地区など、またリゾート地区と市街地区など個性の多彩な各地区を顧客が自由に選択し楽しめる複合体を、ニセコリゾートエリアのビジョンとする。

2) 観光局の目的は、ビジョンの実現に向けてニセコの価値を未来に引き継ぐこと
ビジョンを実現するため、ニセコの価値を未来に引き継ぐべく、環境の保全や自然特性を生かした土地利用などを自律的にコントロールし、顧客目線によるプロモーションや住民目線による受入環境の品質向上を進めることが、ニセコ観光局の目的である。

(2) 観光局は、多様な業務を通じてニセコブランドの熟成を担う

1) ブランドは「フォーカラズニセコ」

ニセコのブランドを、『フォーカラーズニセコ』（仮）とする。四季それぞれに異なる魅力、エリア内の多様な地区の個性を表現し、誰もが「ニセコに行ってみよう」と憧れるブランドを、ニセコの根源的価値である自然環境や景観保全に基づく誘致と受入の循環の中で熟成していく。「フォーカラーズ⁺99%パウダースノーニセコ」等、全体と個別を多彩に組合せて展開する。

2) ミッションと役割分担：対象の絞り込みに基づく多様な業務

ニセコの価値を未来に継承するためのガバナンス機能が観光局の第一義的なミッションとなるが、ニセコリゾートエリアのブランドを確立することも重要な業務内容であり、その観点から【受入環境の品質向上】や【セールスプロモーション】も行う。その際、観光客の国や来訪目的の違いによって、受入環境の品質向上とセールスプロモーションのいずれを重視するかの絞り込み（セグメント）分析をきめ細かく行い、多様な観光振興策を柔軟に組合せる。

観光局の具体的な業務内容は、別紙フロー図 A のとおりである。ニセコの価値を守り未来に引き継ぐガバナンス機能を最上位とし、その観点に貫かれた多様な業務体系を目指す。

3) 官民一体の組織形態

両町の官民が一体となった法人組織形態（一般社団法人など／未定）を目指す。観光局の根幹にあたるガバナンス機能を主に担う行政的機能と、マーケティングの現場全般を担う民間事業的機能が融合し、地域全体の未来に責任を有し貢献する、現場実践型の組織形態とする。

4) 実践力のある多言語スタッフを中軸に

スタッフは、少数精鋭の体制とし、現場で実践力を行使できるよう、ニセコリゾートエリアで常態化している多言語による業務が可能なスタッフを中心に、官民の合同チームとする。

5) 当面は両町が財源措置を

観光局運営の財源は、当面両町から供給されるものとし、従来 NFP が負担してきた分を NFP の合意に基づき法定外目的税（リフト税）として財源の一部に充当する。民間からの他の財源は、両観光協会や関連事業者の現状に鑑み、将来課題とする。 ※参照：別紙フロー図 B

4. 「ニセコ観光局検討準備室（仮称）」の必要性とその仕組み

観光局の基本案は見えてきたが、詳細の詰めは課題として残されている。特に、計画や規則等ガバナンスの具体化、組織形態、業務内容の個々の具体化、他団体等との役割分担の調整、スタッフ配置、財源と用途などである。残された課題を具体的に詰めるために、「ニセコ観光局検討準備室」（仮称）を設置する。官民のスタッフを配置し、その財源は両町と NFP が負担する。任務は、①ガバナンスツール（計画、規則等）の実体化、②観光局の組織づくり、③FAM トリップ対応等最小限の対外的な受入れ業務及び WEB 更新等。 ※参照：別紙フロー図 C

5. 観光局設立までのロードマップ：平成 25 年 4 月準備室設置から

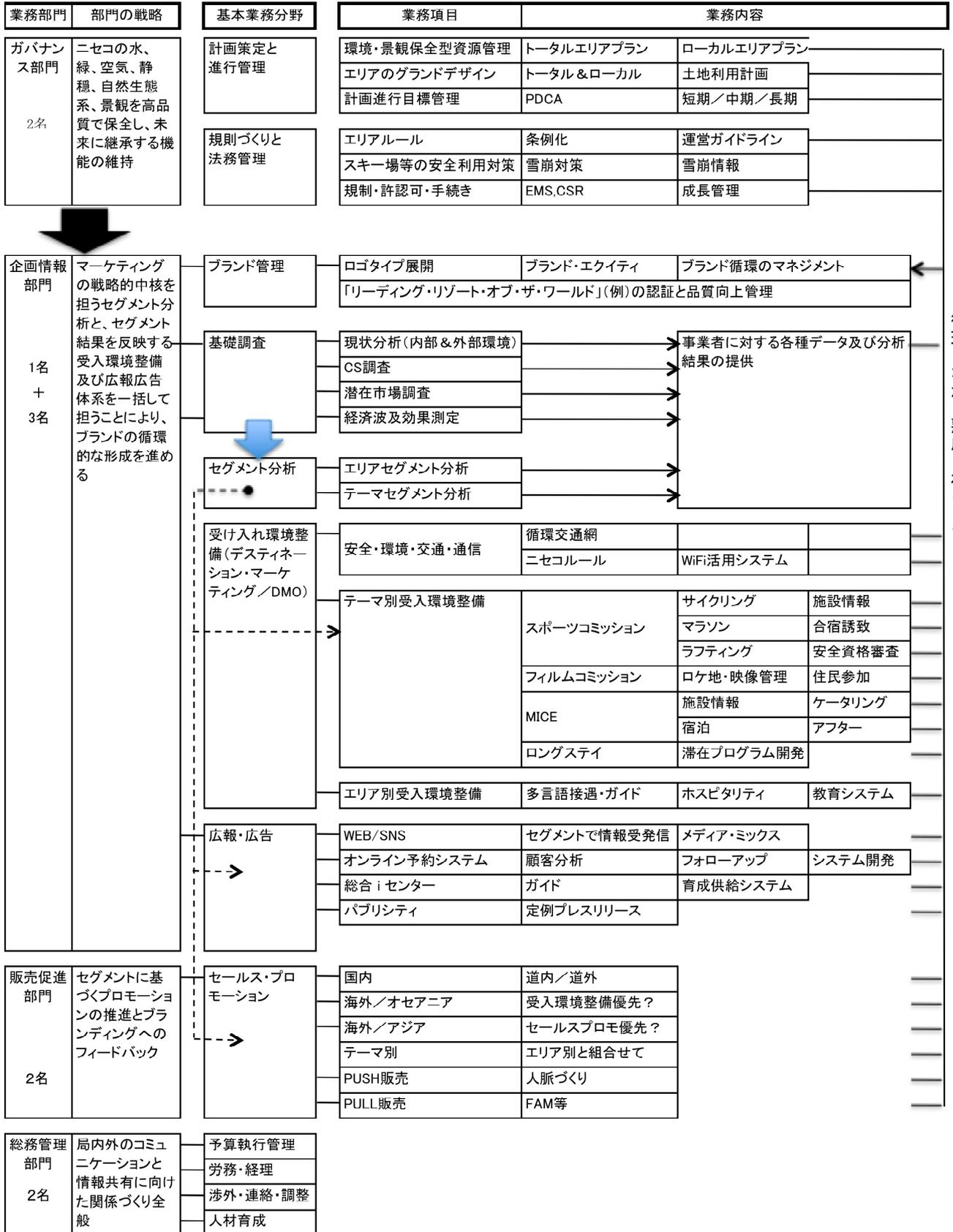
平成 25 年 4 月の準備室設置、平成 26 年 4 月の観光局発足を、ロードマップの大きな道標とし、関連して必要な業務や調整等を行う。ただし、観光局の発足は、あくまで準備室の任務が完遂されることによって実現されるものとする。具体的なスケジュール表は、別紙フロー図 D

参考：別紙資料 A～C

別紙フロー図 A

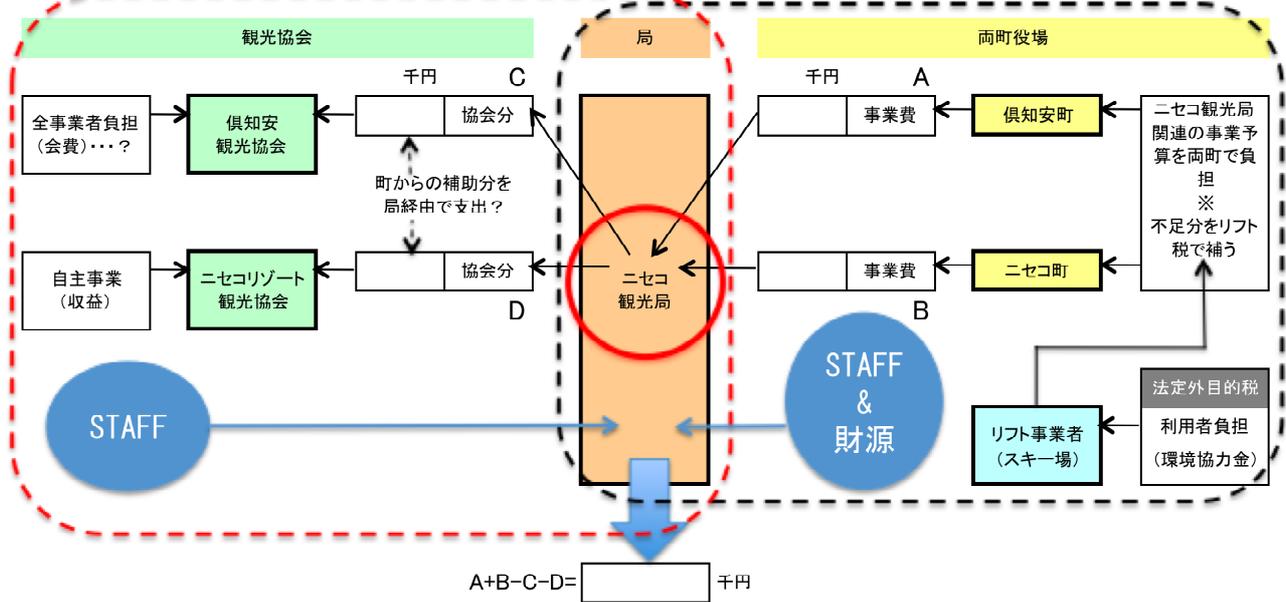
「観光局」の業務と組織の体系／目標とする全体像

2012.12.3



※参照：別紙フロー図 B

ニセコ観光局の財源構造とその考え方 / 将来の構想として



※参照：別紙フロー図 C

「準備室」の業務の体系と内容

部門	準備室の業務の狙い	基本業務分野	項目準備室の業務	業務手法(※詳細別途)	STAFF
ガバナンス	●観光局の根幹機能として、ニセコの環境価値を守り未来に継承する仕組みづくりを優先的に構築する。	計画策定 規則づくり	エリアのグランドデザイン エリアルール	環境景観保全型土地利用計画 運営ガイドライン→条例化検討	A/B
企画情報部門	●これらの戦略的な取り組みの成果を「観光局」の発足と同時に情報発信できるようにするため、DESTINATION視点にもとづくコンテンツの統合に向けて、WEBを中心とする各種広報広告媒体の統一作業を進める。 ●さらに、これらの「観光局づくり」の進展状況について定期的なプレスリリースを行い、内外からの期待感と情報共有の気運を盛り上げることに、力を注ぐ。	広報・広告	WEB/SNS メディア・ミックス 定例プレスリリース	観光局としてのサイトを再構築 印刷媒体などの統合を協議調整 時機を見計らって年数回程度	A/C/D
販売促進	●FAMについては、準備室が関係機関と連携し積極的に対応しPULLする。	セールス・プロモーション	FAM受入	関係機関と協力・連携	A/C/D
総務管理部	●「観光局」への統合に向けて、エリア内外の各団体や事業者との調整を細部にわたって詰める。 ●局スタッフの研修も行う		観光局の財源システムづくり 法人化組織づくり 渉外・連絡・調整 人材育成	関係機関との協議 さまざまな必要手続き 定期的な協議の場と個別交流 観光局スタッフの研修	A/C/D